

(⇒表からの続きです)

という、上から目線の「私の心」がきっと表れたのではなかったかと今は思っています。

さて、私がかんりのマンガ好きだということは、以前も話したことがあります。好きなマンガ家の一人に高井研一郎さんがいるのですが、その方が先日(11月14日)79歳で亡くなりました。その代表作に「総務部総務課 山口六平太」というのがあるのですが、その中に次のような「おざなり」と「なおざり」の言葉の違いが出てきました。

『「おざなり」は誠意のないその場限りの間に合わせであること(例：おざなりな対応)。

『「なおざり」は物事を軽く見て、大事にしないこと(例：抜本的な対策を講じるべきなのに、なおざりな対策に終始した)』という感じです。

私もネットで調べてみました。そこには『「おざなり」には適当な対応をするという意味がある。一方で『「なおざり」には、成り行きにまかせるままで、いい加減にほっておくという意味がある。2つの異なる点は、いい加減にその場を取り繕う(トリツクロウ：あやまちなどをかくして、その場をすますこと)という意味では『「おざなり」を、成り行きにまかせるままで、いい加減なままほっておくというときは『「なおざり」を使う。『「おざなり」にすますことはできても、『「なおざり」にすますことはできない』とありました。この説明に、私はハッとしました。

今日のタイトルにもあるように、みなさんが「おざなり」な勉強ばかりしていると、いつの間にか「なおざり」な自分になっていくのではないだろうか…。「おざなり」なことは、テスト勉強ばかりでなく、自分自身のすべての言動や生活につながっているのではないかと思います。さほど厳しく非難されるほどではない「おざなり」なことをやっているうちに、いつの間にか「なおざり」(常に何でも適当にやってしまう)になってしまい、それが一生ついて回るかもしれないのです。

4次テストが終了しました。一生懸命勉強したにもかかわらず、手ごたえがなかったという人がいるかもしれません。でも、それは努力している(勉強している)わけですから、やった分の学習量は必ず蓄積されていきます。コップから水があふれるかのように、いつかは結果として実を結ぶはずです。「おざなり」な勉強しかしていない人は、常にその場限りですから、どこまでいっても「おざなり」な結果しか出ませんし、最終的には「なおざり」なものしか手に入らないのだと思います。これは、部活動でもほかのことでも全く同じです。もしかすると、「やっぱり勉強しておけばよかった」とか「もう少し頑張ればよかった」という反省を感じているかもしれません。でも、「おざなり」な反省は、結局「なおざり」(常に何でも適当にやってしまう)なことにならなから、次も、そしてその次も、きっと「おざなり」な反省ばかり繰り返していくことになるのだと思います。

【今日のひとり言】

●今日のイラストは、3年生の

に描いてもらったものです。11月27日に、小中野公民館で「第1回おやじサミット」が開かれます。これは、八戸市内のおやじの会や父親委員会等の方々が集まって、いろいろなことを話し合いながら親睦を深めるというもので、小中野おやじの会が中心となって企画しています。そして、この機会に小中野おやじの会を象徴する旗を作ることになり、そのイラストを美術部に依頼した結果、

作品が選ばれたものです。まさしく「優しくて頼りがいのある頑固おやじ」にふさわしいイラストだと私も思います。もそうですが、イラスト募集に協力してくれた美術部のみなさん、ありがとうございました。(参加賞はあとで…。)

